# 北信教育事務所だより

～子どもに発し、子どもに還る　学校づくり・授業づくり～

共にひらく

令和4年11月22日 第5号

## 子どもに発し、子どもに還る～教育課程研究協議会～

令和４年度教育課程研究協議会は、感染症対策を講じ、授業での子どもの姿を通して学び合う貴重な一日となりました。いくつかの授業、そして教育事務所に寄せられた会場校のアンケート内容から授業づくりについて振り返ります。

### 前時までの子どもの姿から授業改善の方向性を決め出す

**中学校２年　道徳　主題名「わたしにとっての『夢』とは」**

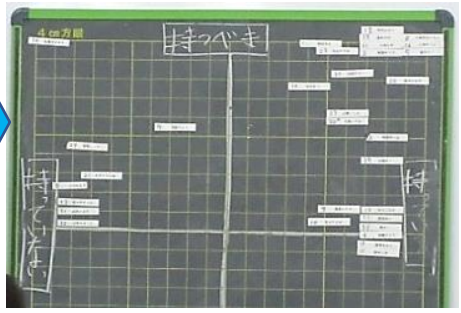
○授業の「ふりかえり」
わかりきっていることを言ったり書いたりする授業だったな

○授業に対する評価を行う
・学習指導過程は、適切に構成されていたかな
・指導の意図に基づいて的確な発問ができていたかな

○指導の意図を明確にする
・夢や目標とは何だろうか。
・生徒は夢をどう感じているだろうか
↓
生徒と「夢との向き合い方に目を向けて、自分らしい生き方」を考えたい

◆発問の工夫
「これから、自分の『夢』とどう向き合っていこう？」
◆期待する子どもの姿
「明確なゴールもいいけれど、夢は特別なものではなくて、自分の中で頑張るための理由にしていきたい」

**★授業改善の方向**
学習過程や発問の吟味
・自己を見つめる視点の設定
「心のものさし」を活用し友と考えを共有し、対話のきっかけとする
・生き方について考える場面を設定する



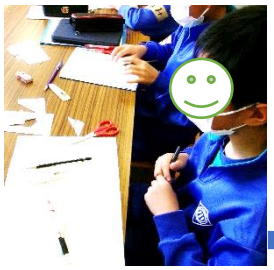
### 子どもが主体的に追究するためにＩＣＴを活用する

**小学校５年 算数 単元名「面積」**

高さが外にある三角形の面積はどのように求めればよいのだろう？

先に進んでいるＢさんの考えを参考にしてみよう。

これはどういうことだろう。直接、Ｂさんに聞いてみよう。



**【子どものＩＣＴ活用】**
・デジタル教科書を活用し、自分のペースで学習を進める。
・クラウド上に保存された友だちの学びの足跡（ノートなどの画像）を自由に閲覧できる。

追究に行き詰っていたＡさんは、クラウド上にある学びの足跡を見ることで、Ｂさんとつながり、面積を求められる形に等積変形することによって三角形の面積を求めることができました。
ＩＣＴを活用することで、友だちとつながりながらねばり強く主体的に学習に取り組むことができました。

＜本号でお伝えする内容＞　＃…主な読者対象　頁


☆教育課程研究協議会　＃全読者　❶
☆初任研　教師力向上研修Ⅲ　＃全読者　❸

# 授業を公開してくださった先生方からの声

～「指導主事の学校訪問支援に関するアンケート」への回答より～

授業を公開してくださった学校からは、実践を通して「指導と評価の一体化」や「学びの充実につながる ICT の活用」等、今まさに私たち教師が取り組むべき内容についてご示唆をいただきました。

## 指導と評価の一体化

A 先生

子どもの姿を想像しながら授業をつくることができました。授業づくりには、学習指導要領を活用することが大切だとあらためて感じました。これからの授業づくりにも活用していきたいです。

★ポイント★　子どもの具体的な姿を思い描くことで、「子どもの姿をどのような視点から見るのか」という評価の観点が明確になり、子どもの姿が期待するものと違った時の指導のあり方の見直しにもつながりますね。

## ICT の活用

ICT 活用について、生徒の具体的な姿から、有効にはたらいた点が見えてきました。今後の学習の中でもその場面に応じて活用を考えていきたいと思いました。

B 先生

★ポイント★　実験結果や考察について、端末で入力し、全体で共有して考えることを通して、現象から規則性を見いだすことができました。子どもが端末の扱いに習熟し、活用の幅を広げながら探究していくことが、資質・能力の育成につながっていきます。

## カリキュラム・マネジメント

C 先生

本時に至るまでの過程で、子どもからわき上がる思い、子ども同士の対話が追究を深めることを学びました。これは学びの改革においても重なることで、教科学習にもつながる学びとして、今後も学校全体で取り組んでいきたいと考えています。

★ポイント★　子どもが自分なりの問いをもち、協働的な学びを通して解決の見通しをもつことを大切にしながら、教科横断的な視点で資質・能力の育成を目指そうとする取り組みが参考になりますね。

## 研究推進

生徒が振り返りの観点を持つこと、相手意識を高めることで学びの質が高まるということを学びました。他教科に広げていきたいことなので、本校の研究として大切にしていきたい。

D 先生

★ポイント★　相手意識を持つことで、言語活動に必然性が生まれます。なぜその学習を行うのか、なぜその力をつける必要があるのかを子どもと共有することで、主体的な学びにつながります。

先生方からは、「何より子どもたちの学びの姿勢が大きく成長したことがとても嬉しかった」「この子たちと私だから、この題材にしたいという思いをもち、生徒と向き合うことにつながった」といった声もありました。今回、授業を公開してくださった学校の取組を参考に、これからも、子どもに発し、子どもに還る実践を積み重ねていきましょう。

# STEP FURTHER!!

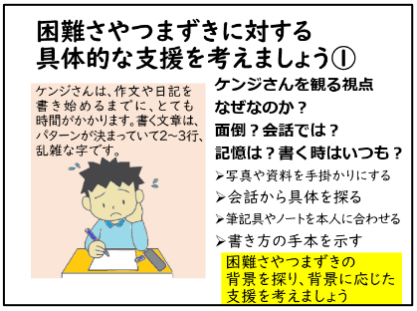
## ～新たな視点を得た 教師力向上研修Ⅲ～

10 月 25 日（火）に初任研 教師力向上研修Ⅲが行われました。今回は特別支援教育の講義・演習と、自己課題の更新に向けてのグループ協議が行われ、熱心な話合いがありました。

## 「困っているのは子ども」 【特別支援教育 講義・演習】

「特別支援教育」って何だろう…
どう支援したらいいんだろう…

子どもを理解し寄り添いながら、つまずきの背景を探り、適切に支援します。



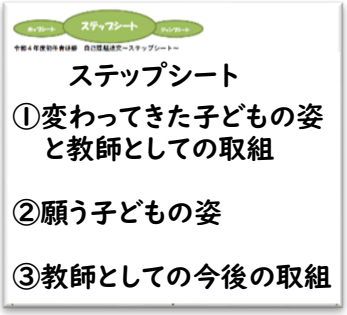
【研修のまとめ】 ・特別支援教育は全ての子どもが対象で、その子が持つ力を最大限発揮するための手立てであることを認識した。個別の配慮をする前に学級づくりや授業づくりの土台が大事であることを学んだ。

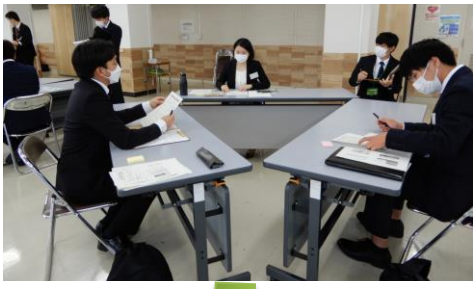
・困難さやつまずきの背景には様々な要因があり、支援の考え方も一人では固定的になってしまうので、教師間で連携を取りながら、個に応じた支援を見つけていきたい。

・特別支援学校の先生と演習する中で、自分が思いつかない具体的な支援方法を学んだ。子どもの様子をしっかりと観察することは小・中学校でも同じで、全ての子どもにとって、安心して学べる土台をまずは築いていきたい。

## 「すべての子どもが輝くために、見つめ直す」 【自己課題追究】

自己課題追究グループ協議では、事前に記入した今後の取組をまとめたシートを基にこれまでの取組を発表し、現時点での課題について校種を越えて互いにアドバイスし合いました。



【研修のまとめ】 ・自己課題の更新をするにあたって、他校種の先生方や指導主事の先生からアドバイスをいただいたことで、自分自身の今後の見通しをより明確にすることができたと感じている。特に、子どもが根拠を明確にして説明できるようにするためには、日頃の授業の中で、「既習とのつながり」を取り入れることが大切だと学んだ。

・養護学校の先生は、特別な配慮が必要だからこそ、的確に対策を取っていると感じた。自身の指導・支援は抽象的なことがあるので、もっと具体的に考えられるようにしたい。

研修を通して、自己の課題に誠実に向き合う初任者の先生方の姿がありました。今回は改めて、子どもの気持ちに寄り添い、その視点に立って考えることの大切さに気付き、様々な立場の先生の見方・考え方に学ぶことができました。ぜひそれぞれの学校で、学年会や教科会等で語り合い、様々な視点から子どもの姿を捉えていきましょう。そしてすべての子どもの学びの成立を願って、具体的な支援を重ねていきましょう。